

## トマト 春菊

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
トマト	-----	-----	-----	-----	-----							
春菊	■					-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

### トマト



#### 土づくり

- ・堆肥、石灰を施用し、十分に耕耘、畦たてし排水対策を行う
- ・地温確保のためマルチを行う。

#### 定植

- ・定植苗：本葉7～8枚、第一花房が2～3花咲いているもの茎の太い、子葉のついているもの
- ・定植：鉢土を壊さないように植え付け、深植えにしない  
株間40～45cm  
畦間100cm(1条)140cm(2条)  
活着するまではかん水を十分に、その後は控えめに(樹が強くなる)・株間70cm
- ・乾燥が続くときは少量の株元灌水を行い、活着を促進する

#### 灌水・追肥

- ・4段果房が開花する頃から草勢を見て、徐々に灌水する。
- ・1段果房収穫以降は草勢を見ながら少量多回数の灌水を行う。
- ・追肥は樹勢に応じて行うが、1回目の追肥は一番果の肥大を見届けてから与える

#### 温度管理

- ・日中気温 25～28
- ・夜間気温 定植～活着 12以上  
活着～収穫始め 10

#### 整枝・誘引・摘心

- ・わき芽かぎが遅れると主枝の伸びが悪くなり、樹が栄えすぎる。
- ・わき芽は基本的には取り、1本仕立てとする。
- ・芽かきはハサミを使うとウイルスを伝染する恐れがあるので、手がかき取る。
- ・摘芯は、6～8段で止め、最終花房の上に葉を2～3枚残す
- ・不良果を除いて4～5個に摘果する。

#### ホルモン処理

- ・1段花房、低温時期、高温時期は確実に着果させるため、ホルモン処理を行う  
トマトーン 100倍  
散布時期： 3花開花時

#### 収穫

- ・直売の場合は完熟したものを収穫するが、高温期は完熟したものを販売すると傷みやすいので注意する

## しゅんぎく

<p><b>特性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 涼しい気候を好み、生育適温は 15 ~ 20 (最低 5 ・ 最高 27 ) であるが、暑さ・寒さともに比較的強い。</li> <li>・ 秋まき栽培は気温がある程度下がり、抽苔のおそれも少なく、最も作りやすい作型であるが、病害に注意する。</li> </ul>
<p><b>播種量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3.5 ~ 4L/10a ( 直播き栽培 )</li> </ul>
<p><b>本圃の準備</b></p> <p>適地の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膨軟で保水力のある土壌を好み、推肥施用の効果は大きい。</li> <li>・ 排水対策を行い、過湿を防ぐ。</li> <li>・ 全面施肥、酸性に弱いため pH6.0 以上に保つ。</li> </ul>
<p><b>栽培密度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栽植距離：畝幅 120 cm、条間 26 ~ 28 cm</li> <li>・ 播種：種子はすじ播きとし、うすく覆土する。</li> </ul>
<p><b>間引き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播種後 15 日 ( 草丈 2 cm 位 ) 頃に株間 2 ~ 3 cm に 1 回目の間引きを行う。</li> <li>・ 2 回目は、1 回目間引き後 15 日頃 ( 草丈 5 ~ 6 cm 位 ) に株間 10 ~ 12 cm で行う。</li> </ul>
<p><b>追肥</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追肥は約 1 ヶ月おきに葉色を見ながら時期・量を変えて行う。</li> <li>・ 葉が肥料やけしやすいので収穫直後に施す。</li> </ul>
<p><b>かん水・換気</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質の向上・低温期の生育促進と寒風による葉傷みを防ぐため、10 月よりサイドの開閉を行う</li> <li>・ 過湿によるべと病の発生予防に努める。</li> <li>・ 乾燥しやすくなるので、灌水に努める ( Ca 欠乏症の防止 )。</li> <li>・ 日中気温が上昇する場合 ( 特に、秋、春先 ) は、できるだけ換気を行う。</li> </ul>
<p><b>収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 回目の収穫は主茎を地際 3 cm 程度残して摘み取る。</li> <li>・ 2 回目以降は次々に腋芽を摘んでいくが、この場合は葉柄を短め ( 2 cm 以内 ) に残しておく。</li> <li>・ 親株に残す葉数は 4 ~ 5 枚とし、腋芽は 1 株に 3 本位とする。( 茎の大きい腋芽を仕立てる )。</li> <li>・ 3 月より抽苔が始まるので、摘蕾を行う。</li> </ul>